

論文タイトル / Paper Title

著者名 / Author Name

August 18, 2025

Contents

1	はじめに	2
1.1	研究の背景	2
1.2	研究の目的	2
2	引用例	2
3	テーブル例	2
4	結論	2
4.1	まとめ	3
4.2	今後の課題	3

1 はじめに

ここにははじめにの内容を書きます。このテンプレートは \LaTeX で論文や報告書を作成するためのものです。 \LaTeX の詳細については、[\[4\]](#)や[\[3\]](#)を参照してください。また、最新の情報は[\[5\]](#)から入手できます。日本語での解説は[\[6\]](#)が詳しいです。

1.1 研究の背景

研究の背景について説明します。[\[3\]](#)によると、 \TeX は組版システムとして優れた機能を持っています。

1.2 研究の目的

研究の目的について説明します。[\[6\]](#)を参考に、日本語文書の美しい組版を目指します。

2 引用例

ここに引用を入れてみましょう [\[2\]](#)。また、別の文献も引用できます [\[1\]](#)。

3 テーブル例

Table 1: 基本的なテーブル例

項目	数値	単位
長さ	10.5	cm
幅	5.2	cm
高さ	3.1	cm

Table 2: 数式を含むテーブル例

計算式	結果	備考
$2 + 3$	5	基本演算
10×5	50	乗算
$\sqrt{16}$	4	平方根
3.14159 ± 0.00001	3.14	円周率

Table 3: 日本語を含むテーブル例

項目名	値	説明
データ 1	100	最初のデータ
データ 2	200	二番目のデータ
データ 3	300	三番目のデータ

4 結論

ここに結論を書きます。

4.1 まとめ

研究のまとめについて説明します。

4.2 今後の課題

今後の課題について説明します。

References

- [1] Book Author. *Example Book Title*. Example Publisher, Example City, 2024.
- [2] Example Author and Another Author. Example research paper title. *Journal of Example Research*, 1(1):1–10, 2024.
- [3] Donald E. Knuth. *The TeXbook*. Addison-Wesley, Reading, Massachusetts, 1984.
- [4] Frank Mittelbach, Michel Goossens, Johannes Braams, David Carlisle, and Chris Rowley. *The LaTeX Companion*. Addison-Wesley, Boston, 2 edition, 2004.
- [5] LaTeX Project Team. The LaTeX project, 2024. Accessed: 2024-01-01.
- [6] 日本語 LaTeX 研究会. **日本語 LaTeX 入門**. 技術評論社, 東京, 2020.